

望ましい集団活動を通しての学級の生活づくり
～学級活動を中核とした学級づくり～

田村市立美山小学校 教諭 齋藤 孝之

1 研究の趣旨

小学校入学時に1年生児童が初めての集団生活になじめず、授業中歩き回ったり、私語が絶えずに授業が成り立たなかったりする小1プロブレムが社会問題になっている。そのうえ平成23年度の1年生児童は、余震や放射線の問題など先行きの見えない不安が社会・家庭・学校を覆うなかで、3月11日以降に幼稚園や保育園の集団生活を離れてとても不安な状況で入学してきた。

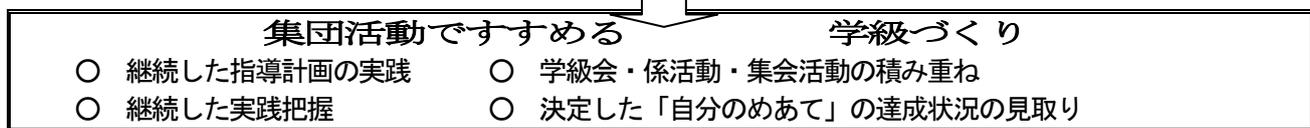
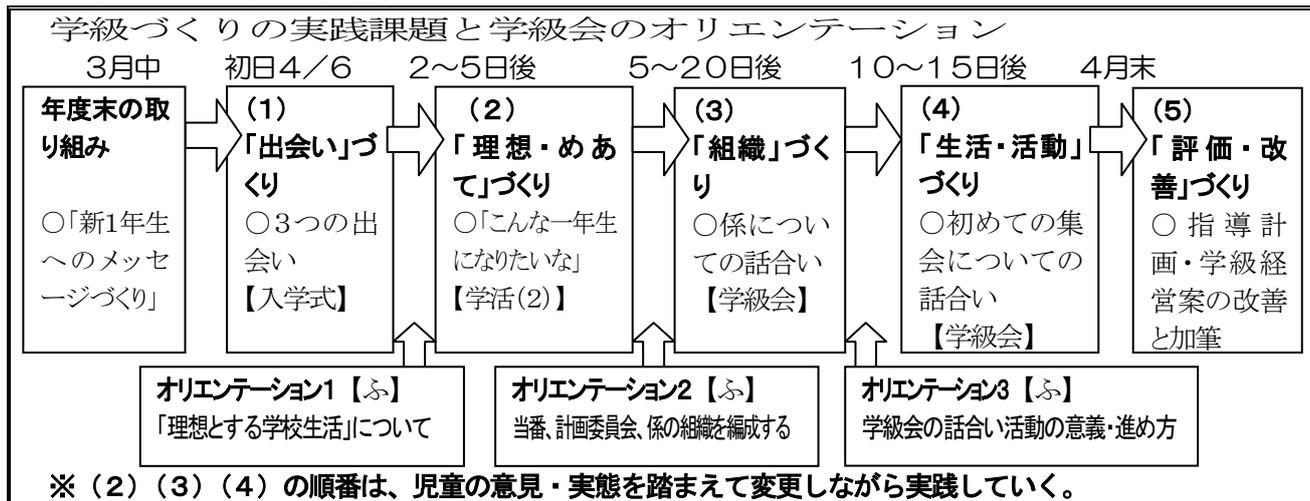
そんな児童が安心して小学校生活を楽しみ慣れ親しんでいくためには、望ましい集団活動を通して、児童一人一人が友達とかかわる楽しさを味わい、自分の役割を達成するなかで自分の思いを実現し互いに認め合うことで、よりよい人間関係を築くことが大事であると考えた。そのためには児童一人一人が互いのよさや可能性を認め、生かし、伸ばし合うことができる学級活動の指導を重視することが大切であると考えた。

2 研究の概要

(1) 研究の対象

平成23年度 福島市立鳥川小学校第1学年2組 (男子17名 女子13名)

(2) 実践内容 (実践計画図)



※ 【ふ】 = 「ふれあいタイム」・毎週火・木曜日 (13時25分～13時40分) の時間に児童が企画をした外遊びや集会活動を行う。

3 成果と今後の課題

(1) 成果

年度当初から計画的に望ましい集団活動を行い、学級の生活づくりに取り組んだことで、徐々に学級の雰囲気・児童の表情が和らぎ、安心して学校生活をおくることができた。そして児童が学校生活を楽しいと感じることで、小1プロブレムを解消することができた。

(2) 課題

1年生なりに楽しかったことをまとめたり、お互いのよさを認める活動、振り返りカードなどに取り組んでみたりした。しかし、児童一人一人の変容をつかんで、それに対応していくことは難しかった。「教師の児童とのかかわり方・見取りの方法」を工夫して日常の学校生活から児童の変容の記録を行っていきたい。